

日本人が知るべき 親日の歴史

2021年4月13日 ディレクトフォース 技術部会

会員 越 純一郎

ポーランド 日露戦争

中東欧・ロシアなどにも見られる
誇り高い傾向

ポーランド分割

1904年 日露開戦

→直ちに、ヨセフ・ピウスツキ元帥
(後の初代国家元首)が訪日。
これは同国で良く知られている史実
→このことは、ポーランドでは「有名」
(因みに、同元帥の実兄 ブロニスワフ・
ピウスツキはアイヌの日本女性と結婚)

日露戦争の日本の勝利に、
ポーランドは歓喜！
フィンランドも、インドも、トルコも、、、
アジアの無名の小国「日本」が、
ヨーロッパ最強の陸軍国ロシアを破り、
バルチック艦隊は壊滅する一方、
聯合艦隊は無傷に近く、
更に捕虜と敵将軍に対する人道的、
武士道的対応が日本の名を高から
しめたのです。

ポーランド 独立

ロシア革命に乗じて ポーランド独立

その数か月後の1919年3月22日
アジアの国として初めて、

日本が**ポーランド独立**を承認

つまり、一昨年が国交100周年
(日本人の誰が知っていたか)

昨年、即位の礼に参列するために来日
したドウダ大統領夫人は、「**100年前、
アジアの国としては最初に、日本が
ポーランドの独立を承認してくれた**」
と挨拶。

**翻って我々が両国史に無知ならば
日本人の名が泣く**

同年ワルシャワ大学に日本語科設置。

現在、国立4大学の日本語専攻の定員は
600人、その他に約60の機関や学校で
日本語を学ぶ定員は約4500人。

全国で日本語弁論大会が盛ん

日本の武道も盛んで、特に空手は、同国
6番目の人気スポーツ

(以上は、日本の外務省のHPによる)

2018年のワルシャワ大学の日本語専攻
の入試倍率は27倍と超難関

ポーランド シベリア孤児救出

国交樹立の翌年、まだ外交使節の交換すらしていない1920年

シベリアに流刑されていたポーランドの独立運動の志士・家族は15～20万人

腸チフスの流行等で、シベリアに1000人ものポーランド孤児

ポーランド側はシベリア出兵中の英米仏伊加中に救出要請 → 全て拒否される

最後に要請を受けた日本は、17日後に、「**帝国陸軍と日本赤十字で救出する**」旨を回答！

数次に亘り、計765人の孤児を日本に救出

日本は朝野を挙げて温かく迎え、慰問品や寄贈金も次々と贈られ、**貞明皇后**から4回にわたり資金が下賜。(日本赤十字のHPに詳しく紹介されています)

孤児全員は、日本の船で母国に帰還

孤児を救った51名の日本軍将校に対し、ポーランド政府は1925年に、**ヴィルトウティ・ミリタリー勲章**を授与。

ポーランド孤児救出を伝える資料・文献は、感動的。

ポーランド ユダヤ人に「命のビザ」

「東洋のシンドラ」杉原千畝
目黒区のポーランド大使館では、
戦時中のトアニア副領事杉原
千畝の資料を展示することがあり
ます。

杉原千畝が「命のビザ」で救われ
たユダヤ人の多くは、ポーランド
国籍でした。

その子孫は、現在25万人。

2008年、杉原千畝にポーランド
政府はポーランド復興勲章授与。

バトンをつないだ根井三郎(外交官)
(日露協会学校で、杉原の2年後輩)
杉原千畝の命のビザでウラジオストクに
逃れてきたユダヤ難民に、外務省の訓令
に反して、日本行の船への乗船を許可。
出身地の宮崎で、近年、顕彰活動開始。

樋口季一郎(陸軍少将<当時>)
駐在武官としてポーランドに赴任(1925)。
シベリア鉄道で満ソ国境まで来たユダヤ
難民が満州経由で上海に逃れる「ヒグ
チ・ルート」により数万人を救いました。

ポーランド ワレサ大統領に国民が喝采

第2代大統領はレフ・ワレサ氏(まだご存命)
(言語読みの発音は、レフ・ヴェウエンサ)

1990年の就任に際して、

「ポーランドを**第二の日本にする**」と演説。

国民は、これに喝采。

ワレサ政権のバルセロビッチ財務大臣は、
天才的手腕で経済改革を断行

それに先立ち、日本の戦後の経済復興の
方法を学ぶために訪日。日本興業銀行な
どを訪問。

戦後、ポーランドはスターリンに支配される
一方、日本もマッカーサーに占領された。

ところが、日本は原爆のハンディ等にもかか
わらず、戦後19年にして東京オリンピックを
実現

さら15年後、ハーバード大学のエズラ・ボー
ゲル教授は「ジャパン・アズ・ナンバーワン」
を出版するほどに

このような日本の戦後復興の成功物語は、
共産体制終了後にテイク・オフを目指す
ポーランドにとっては、驚異の目で見える成功
モデルだったでしょう。

ポーランド 恩を忘れない民族

日露戦争勝利、シベリア孤児の救出、杉原千畝。常にポーランドの側に立ち、何らの見返りも求めなかった日本

「ポーランド人は恩を忘れない国民である」

と語ったのは、1995年にワルシャワの日本大使館を訪れた、8人のシベリアから救出された孤児の方々

8人は、感涙に咽びながら、アルバムを見せたり、日本でもらった扇子を肌身離さず持っていたことなどと話した

阪神淡路大震災後の1996年、被災児30名がポーランドに招かれ、各地で歓待

帰国前パーティーには、75年前にシベリアから救出されたポーランド孤児4名が出席し、震災孤児一人一人にバラの花を渡した

万雷の拍手

「シベリア孤児を慈しんだ大和心に、恩を決して忘れないポーランド魂がお返しをした」(兵頭長雄元ポーランド大使)

「恩を忘れないポーランド」に対して「**歴史**を忘れない日本」でありたい

ポーランド 「次の100年は始まった」

2019年は国交100周年だった

両国間の「最初の100年」には、
意味のある歴史があった。

次の100年は始まった

次の100年も意味深いものとしたい
新たなる努力によって

如何なる努力によってか？

- **両国関係史を知る、伝える**
- ポーランドを理解する
- 産業交流！

ポーランド人の心には深く日本が。

我々はその歴史を知らずしては日本人の名が泣く
我々が「歴史を忘れる民族」であってはならない

我々は日本とポーランドの、そして他の多くの親日
国との歴史にも通じなければなりません。それは；

- 相手国に対する礼節
- 日本人の矜持
- 我が国の安全保障と国益
- 先人たちの尊き志と努力への敬意

我々は、これを知る義務があり、
同時代人と後進に伝えることも、また義務

インドネシア 日本による植民地解放

350年ものオランダの植民地支配

1941年12月8日 真珠湾攻撃

12月10日、オランダの対日宣戦
布告(オランダは日本の進駐を拒否)

1942年2月、日本軍のインドネシア
侵攻開始

2月14日、パレンバン空挺作戦
「空の神兵」が製油所を無傷確保

3月12日、オランダ軍の全面降伏

日本の軍政に移行

軟禁中の民族主義活動家を解放

スカルノ(初代大統領)

ハッタ(初代副大統領)

禁止されていた「インドネシア」と
いう呼称の使用を解禁

インドネシア語を初めて公用語に

インドネシア 日本の軍政

インドネシアの覚醒

- 日本の勇戦を見たインドネシアの人々は「アジア人は劣っていない」「自分たちにも独立する力がある」とアジア人としての自信を獲得。
- 後に独立宣言をラジオ放送したユスフ・ロノディプロ氏(後年は、各国大使を歴任)日本だけがアジアを支配する白人に立ち向かった。真珠湾攻撃をアジア人として誇らしく思い、自分自身の中の強さを感じた。アジアは劣っていないと思った。

軍政下、インドネシア人は戦う精神も獲得

(暴力的な憲兵、食糧不足、日本の軍政に対する反乱などもあったが)親日家が多数

「日本の侵攻がなかったら独立は遅れた」「いや不可能だった」という声は今も多い

インドネシアの歴史教育

- インドネシアでは小学校から高校まで全ての**歴史教科書**で、インドネシア独立のためにいかに日本が貢献したかを丁寧に説明
- 日本の軍政が残した「①教育システム」「②軍事組織」「③行政機構」が、独立後の同国を支えたことも説明
- 「日本への感謝、尊敬が続いている」(インドネシア人実業家のアリ・ウイド氏)

日本はどうか。

インドネシア、ポーランド、ベルギー、フィンランド等の親日史を教えているか。国民にその歴史認識があるか。歴史を踏まえ、敬意をもって対しているか。

インドネシア 興亜主義 相手国への敬意

興亜主義

今は聞かれないアジア解放の理想とか、興亜主義などが、かつてありました。

我が国の先人たちには
アジアの方々への思いがあり、
対等、相互尊敬の基礎があったのです。

(これを右翼危険思想くらいにしか認識していない不勉強では情けないですね)

翻って、現在の日本人はどうか！？

アジアの方々に対して、(無意識のうちに)相互尊敬の気持を持って接しているか？

国益を損じていないか？

尊敬される側の人間として、恥ずかしくない心の在り方と言動を備えているか？

相手国への敬意

戦時中に南方特別留学生等として日本で学んだインドネシアの方々の下記のような発言が多数

「私たちは敬意をもって扱われた」

「非常に良い歓迎を受けた」

「差別などなかった」

「嫌な思いなどしたことはなかった」

多くの留学生が日本女性と結婚

インドネシア

バリ島の父

三浦襄

三浦襄（1888～1945）

神田出身

熱心なプロテスタント・クリスチャン

若くしてインドネシアで実業家に

人を愛し、正義を貫く人

実業の傍ら、孤児の養育も

「親切で毅然。一度で胸に焼き付く人」

アジア民族解放の理想に共鳴して、

海軍民生部の現地顧問に就任

軍政に道路税/自転車税廃止等を提案

「バリに死す」 長洋弘著、燦葉出版社

敗戦によって、日本は約束していた9月7日のインドネシア独立を果たせず。

その日、三浦は自決。

「私の魂はこの国で生き続け、独立を見守ります」

「インドネシア人自身の手で独立を勝ち取ってほしいと呼びかけるための死だった」

人の価値は地位や名声ではなく、誠意ある行動にあるのだ(長洋弘)

インドネシア 独立宣言 2605年8月17日

インドネシア独立宣言の年号は
日本の年号で刻まれている

- 日本の敗戦の2日後、スカルノとハッタが署名した独立宣言を、スカルノが自宅前で読み上げ
- その日付は「17 08 05」
- 「05」とは、皇紀2605年
- ジャカルタのムルデカ広場(=「独立広場」)に立つ、独立戦争の国民的英雄スディルマン将軍の銅像の台座に刻まれているのも同じ年号。

スディルマン将軍像 献花式

- 2011年1月、プルノモ国防大臣より防衛省に対し、日本の教育・訓練を受けたインドネシア独立時の国民的英雄であるスディルマン将軍の銅像が寄贈された。(防衛省HPより)
- この銅像は防衛省内の東京裁判のあった建物をにらみつける場所に設置。
- 独立記念日の8月17日に行われる献花式には、インドネシア大使が(代理ではなく)自ら参加。

インドネシア 独立戦争(1945~49、死者80万人)

日本軍政下での独立への流れ

- 1943年10月、日本の協力のもとに、インドネシア人の将校たちが率いる民族軍「郷土防衛義勇軍(PETA)」を創設
- 1944年9月3日、インドネシアの将来的な独立を認容する「小磯声明」
- 1945年3月、「独立準備調査会」発足。スカルノやハッタに独立後の憲法を審議させた。
- 1945年8月7日、スカルノを主席とする「独立準備委員会」発足

独立戦争には数千人の旧日本兵が参加し、一緒に戦いました

確認できるだけで約2000人

うち、約1000人が初期に戦死

武器の多くも日本製

彼らは「自分の力で勝利を勝ちとれ」とインドネシア人を鼓舞し、インドネシア独立のために突撃したのです

今、彼らの多くは、インドネシア各地の英雄墓地に眠っています。

ジャカルタ・ポストは、独立戦争に参加した日本人の記事を、毎年、掲載。

インドネシア 新しい時代には新しい努力を

70年代の日貨排斥の影響はなし

今日、これをインドネシア人は思い出すこともなくなっています。

新幹線は中国が受注し、不調

それは中国を選んだことは失敗だったとインドネシア人は思うに至っています。

ジャカルタ地下鉄の成功

日本の技術、円借款で建設。

10万人/日が利用。定時運行率は、ほぼ100%。渋滞解消と経済振興に大きな貢献→日本の評価アップ

菅ジョコ会談(2020年10月)

日本の菅首相は、初の外国訪問の際、ジョコ・ウイド大統領と会談

中国包囲網を意識した内容

新幹線に関する日本の協力や、共同軍事演習などは、実施されるでしょう

しかし、今後、インドネシアが、自動的に、無条件で日本を常に「戦略的パートナー」とすることなど、**ありえません。**

インドネシア 戦略的パートナー

政権ごとに戦略的パートナーを選定

大統領ごとに、戦略的パートナーを選定するのがインドネシア

スカルノ(初代)

- 旧ソ連を選択し、左傾化と言われた
- これは、独立宣言後に西側連合軍がインドネシアを再植民地化しようとしたことに対するカウンター

スハルト(第2代)

- 戦略的パートナーはアメリカ

メガワティ(第5代)

- 戦略的パートナーは、中国

現ジョコ・ウィドド政権

- 前半に中国を戦略的パートナーとしたが、成果がなかったため、親中閣僚を更迭し、戦略的パートナーを、日本/アメリカに変更。
- 中国の領土的野心の影響も。独立戦争で自国領土を取り戻したことが大きなプライドであるインドネシアは、その領土を奪おうとする中国の動きを許せません。
- 但し、中国は最大貿易相手国で、第2位の日本は、その4割程度です。

だから、新しい時代には新しい努力で親日国との良き関係を

その努力には、両国関係史を学ぶ努力も！

親日国とのお付き合いに関する私見

- 「知る努力」、「知らせる努力」が何よりも重要です。
 - 相手国の歴史
 - 両国関係史
- 相手国に対しては、必ず、対等、相互尊敬の態度で接すること
- 現代的課題の抽出、分析、対峙
 - 「親日ぶり」の享受や、「友好ごっこ」に埋没してはならない
- 「親日性の原因、理由」を把握、分析することが極めて重要
(それに比べ、「親日ぶり」の把握には、特に、大きな意味はないことが通常であると言える)
- 伝えるための「材料と方法」を持っておくことは、重要な必要条件です。
 - 様々な電子ファイル等の資料は、差し上げることができます。
 - 連載内容を拡充したサイトを作りたいと考えています。

反日国も、少数ながらあります。
対応方法は、やはり、「まず、知ること」から。

オランダ

- 国家財政の6割をも占めるインドネシアを日本に奪われた歴史
- 平成天皇皇后両陛下のご訪問時にも、抗議運動が
- 但し、近年、皇室外交により対日感情は劇的に好転しているものと思われま

オーストラリア (ニュージーランド)

- 戦時中、日本軍のオーストラリアへの空襲は計97回
- 歴史に無頓着、無知な日本
- 元々、原住民70万人を殺害した歴史。これにも無知な日本。
- 反捕鯨団体：「地球温暖化等ではカネが出てこないが、反捕鯨なら反日国がカネを出す。今年は450万ドルを得た」
(映画「**Behind the Cove**」)

もう一度、考えてみましょう

たとえば；
親日国の国会で
日本の災害犠牲者のために、
全員が起立して黙祷
そして、「日本国民への連帯」
を全会一致で採択

(これは、実際にあったことです)

このことに対して、こんなことを
日本人が言っているようでは
いけません。

「へえー、そうなの」

ここには書けない、もっと酷い
こともあります。

ベトナム

- とても親日的な国です
- **東遊運動**のファン・ボイ・チャウ(1905年、日露戦争に勝った日本に学びたいと日本に密航。その後、日本に200人が留学。)
- **独立戦争には、日本将兵も参加して、一緒に戦いました。**
- 上皇ご夫妻の最後のベトナムご訪問(2017/2)では、**独立戦争に参加した日本人残留兵と結婚したベトナム人女性とその家族**と対面
- 現在、ベトナムからの実習生等が不当、違法な扱いを受けていることについて、憂慮しております。
- 日本人が、人の道に反することをするなど、あってはなりません。
- それによって、ベトナムの方々の日本を思う気持を損ねることは、日本の恥であり、損失です。

フィンランド

- とても親日的な国です
- 一番人気のチョコレートのブランドは、「ゲイシャ・チョコ」
- 一番人気のビールは、「東郷ビール」
- 日露戦争における日本の勝利は、同国民を驚喜させました。
- その後のロシアとの戦いでは、三八式歩兵銃など、日本の武器が使われました。
- それを展示する施設もあります。
- フィンランドディアだけの関係ではありません。

ベルギー

- とても親日的な国です
- 日本・ベルギー協会の名誉総裁は常陸宮正仁親王殿下、名誉会長はロクサンヌ ドゥ・ビルデルリング大使 駐日ベルギー王国大使
- 関東大震災の際、「元ベルギー兵士たちへ」という文書が全国に配布され、「日本の日」が定められ、莫大な寄付金を送ってくれました。
- 昭和天皇の大喪の礼の際には、欧州皇室のなかで、真っ先に、国王陛下が自ら参列されるとの連絡をくださっています。
- それには、歴史的な理由があるのです。

台湾

- 世界一の親日国と言われることも多いです。親日どころか、愛日。
- **日本精神**は、最高の概念
- **李登輝**元総統の著作等は、我々はよくよく読み返すべき。
- **八田與一**
「八田先生の恩を忘れない」
ために、毎年数十人で墓参り
- **飛虎將軍廟**
- 総統府には、歴代の総督の写真
- 台湾は清が「化外の地」として放っておいた、行政も社会統合も何もない未開地でした。日清戦争後、日本に割譲。
- 第4代児玉源太郎総督、後藤新平民生長官が、台湾を自らのデザイン通りに開発し、台湾史上初めて社会統合を実現。
- 今日でも讃えられ社会・産業を支えるインフラ(ダム、道路、教育等)の整備も。
- 戦後の国民党の38年もの苛烈な統治の後、李登輝総統の民主化時代に至り、日本時代の社会秩序、社会規範が鮮やかによみがえり、台湾アイデンティティの淵源に。

インド

- インドの独立の源流となったのは、インパール作戦
- F機関
- インド国民軍 (INA)
- チャンドラ・ボースは日本の潜水艦で、亡命先のドイツから帰還
- 第二の国歌「チャロ・デリー」
- 「何億年たっても日本の恩を忘れない」と、2番の歌詞に書かれている
- と、加瀬英明先生からお聞きしました (未確認)

https://www.youtube.com/watch?list=PL49F7A0A1D13EF4CA&v=CunDINRHP_8

マレーシア

- とても親日的な国です
- 1942年に侵攻してきた日本軍を、マレーシアの歴史教科書では、「解放軍」と呼んでいます。
- マハティール元首相は、毎年のように同じ思い出を話されます。
- 「日本の解放軍が来た時に、、、
- 一度目のマハティール政権におけるルック・イースト政策
- マハティール元首相の著作名は「立ち上がれ 日本人」

トルコ

- テヘラン邦人救出事件
 - 1985年3月
 - イラン・イラク戦争の直前に、テヘランに取り残された日本人をトルコ航空機が救出
 - 自衛隊は来ない
 - JALも来ない
- しかし、志願した乗務員によるトルコ航空機が、突然、飛来し、日本人全員を救出しました。機長はオルハン・スヨルジュ氏。
- このことを、日本人は忘れてはなりません。
- トルコ人もテヘランにいたが、陸路を歩いて帰国
- エルトウルル号事件
- 日露戦争
(別途資料ご参照)

イラン

- イランが米国と対立し、英国艦船を拿捕する状況でも、日本の首相が訪問すれば、イランの最高指導者と会談することができます。
- 歴史的理由があるのです
- **日章丸**事件です。出光興産の歴史上でも、重要な事件です。
- その経緯の中には東海銀行もありました。東海銀行では、「伝説」です。
- 戦後、独立後も石油資源を英国資本に抑えられていたイランは、1951年に**石油の国有化**を宣言
- **英国は軍艦を派遣**し、石油買付に来たタンカーを撃沈すると国際社会に表明
- **出光興産**の出光佐三社長は、英国に国際法上の正当性は無いと判断し、極秘裏に日章丸を派遣
- 国内外の法順守、外交配慮、各国動向の予測、航海危険個所調査など、長い交渉と入念な準備の後、日章丸は53年3月23日、神戸港を極秘裏に出港。
- 日章丸は英国海軍の海上封鎖を突破、5月9日、川崎港に到着。英国石油メジャーの**アングロ・イラニアン**(BPの前身)は、その石油の所有権を主張して出光を東京地裁に提訴するも敗訴。**出光勝訴**が確定。

タイ

- 良く知られた親日国です
- 4回も映画化された超人気の恋愛小説「**クーカム**」(「運命の人」の意。邦訳「メナムの残照」)の主人公は、帝国陸軍将校「コボリ」。女性は、バンコクの少女アンスマリン。
- 外人人気投票では、常に日本人が一番人気
- 1000バーツ紙幣の前国王陛下の肖像で、陛下が手にされているカメラは日本のキャノン製
- **ククリット・プラーモート元首相**(別途資料ご参照)
- 「親日つきあい」だけではだめな理由も教えてくれる国
- 国民性の特色(こうした問題にも、関心をもって学ぶ必要があります)
- ある年の中国との共同演習

パプア・ニューギニア

この国が親日的であるのは、次の理由によるものと推測されます。

- 戦時中の日本兵と現地市民の**良い関係**が、今日にも残る親日感情を形成
- 1942年に日本の侵攻で駆逐されるまでの、**オーストラリアによる、収奪、暴力、圧政**
- 1975年の独立後における日本の**経済援助**
- 親日の背景には、人種意識が、日本人と白人種とでは大いに異なっていることが大きく働いているようです。
- 現地の市民は、白人に対しては親し気な態度を示さないという報告がウェブ上にあります。
- また、市民の多くが「荒城の月」と「ラバウル小唄」を歌えることが、よく紹介されています。

パラオ

- とても親日的な国です
- アメリカの信託統治から独立した1994年より**国際捕鯨委員会**に加盟し、**日本を支持**(2010年まで)
- アンガウル州では、パラオ語、英語、**日本語を公用語**と定めている(実際には使われていない、象徴的な意味)。世界唯一の例。
- 2020年10月に死去した第6代大統領の名は**クニオ・ナカムラ**。
- パラオ語には「**daijobu**(大丈夫)」、「**okyaku**(お客)」、「**denki**(電気)」、「**senkyo**(選挙)」など日本語からの借用語が多数。
- 「私(たち)も、日本人になりたかった」と日本語で言う年配者

ブルネイ

- 1942年、日本の侵攻で英国撤退。ブルネイは日本の県に。初代県知事は木村強。
- 知事はアハマド国王を尊重。その推薦で、国王の弟オマル(後の国王)を秘書に。
- 木村知事は軍の予算で、自生するゴムの木でゴム製品工場を建設。地元民を雇い、正当な給与を支給。その利益で水道、通信などのインフラを整備し、民生を改善。
- また、首狩り族と王家との融和も実現し、他民族国家がまとまっていた。
- 1年後、国作りに心血を注ぐ木村知事の転任に、地元民たちは泣いた。
- 22年後、仙台の検事だった木村氏に、オマル国王から、国作りのためにもう一度ブルネイで腕を振るってほしいとの希望。しかし、60歳代半ばの木村氏は辞退。

世界有数の石油/天然ガスの生産国であるブルネイ。天然ガスの9割は日本向け

木村氏は県知事時代の思いをこう述べています。

私は、戦争に負けることは聊かも想像したことはないが、仮に万が一 期待に反するような結果になっても、日本人の行動、日本人の行為が後世に笑われ、批判されるようなことがないように、品位を維持し日本の国際的信用を高め、長く良い印象を残しておけば いつか海外に発展飛躍ができるから、好感と信頼感を保つようにしたいという信念で、異民族の統治に当たったのであった。